

## “大島テレビがパイプ役”

### 島の心をつなぐふれあい活動

萩市大島婦人部

田中郁子

#### 1. 地域と漁業の概要

私達の住んでおります山口県萩市大島は、明治維新発祥の地として皆様御承知の萩市の沖合8kmの海上に位置し、対馬暖流の影響を受けて年間平均気温15℃で温暖な気候と、日本海の荒波にうたれた奇岩や洞くつ等、複雑な海岸を有し大変景色の良い所です。面積約3㎏、戸数304戸、人口1,115人の島です。

大島-萩航路は一日4往復あり、約25分で結んでいます。主な漁業は、中型まき網、棒受網、刺網、一本釣、採介藻、定置網などです。

漁家戸数は148戸、正組合員は189名、これに準組合員124名を合わせ313名の組合員がおり、平成7年の漁獲高は19億円となっており漁業の盛んなところです。

#### 2. 組織及び運営

大島漁協婦人部は、昭和30年2月に結成され、40年の歴史があります。現在部員数は140名で、20代から60代までの幅広い部員で構成されており、平均年齢は約45歳です。

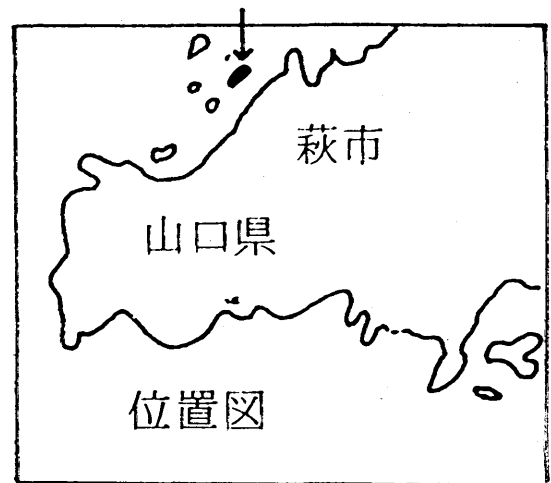
組織としては、部長、副部長、会計、幹事の本部員5名と、支部長10名で役員構成をし、活動しています。

#### 3. 実践活動の課題選定の動機

当婦人部は漁業従事者の健康づくり運動、生産の場である海を大切にする運動、生活設計等、いろいろ取り組みながら、活動の強化をしてきました。

また、後継者が安心して漁業に就業できるよう、生活環境整備や定期休漁日の設定などに力をそそぎ、60年には県内でいち早く月1回の休漁日を定着しました。このような取り組みで、子供達も高校卒業後は漁業に就業してくれ、島に残るようになり、島は大変若い人が多いです。

#### 大島



10年前には、青年部、婦人部ともスポーツが盛んで、バレーボールやソフトボールに汗を流し、親睦を図るとともに、ストレスの解消に役立てていたように思いますが、今は少し変わってきました。休漁日も月4日となりましたが、どの家も萩港の近くに車を置いており、休みには一人で出かけたり、家族と出かけて自由に遊ぶようになりました。

このような若い人の行動や時代の変化のスピードが増したせいでしょうか、以前から地域で続いていた盆踊り大会が昭和62年から中止になりました。お盆に帰省した人が楽しみにしていた盆おどり大会がなくなり、島中のふれあいの場が消え、大変寂しいといわれました。

このことが婦人部活動の大きな波紋を起こしました。暮らしも向上したが、心のふれあいのなくなったことに反省させられました。

縦、横の関係、つながりと連帯感を育てていくことが大切ではないだろうか、「この愛する大島を活性化するために、婦人部として何かできることはないか」と婦人部の集まりがある度に皆で頭を寄せあい、話し合いをしました。

その結果、

- ① 地元の行事に積極的に参画しよう。
- ② 中学生の魚料理を通じて漁業の理解と、食材としての魚の素晴らしさを伝えよう。
- ③ ふれあい朝市を実施し、漁業と農業の産物や人の交わりを深めよう。
- ④ 青年部に協力し、後継者育成と花嫁さがしをしよう。
- ⑤ 大島の美しい自然や海を守るために環境美化に努めよう。

などがまとまりました。

#### 4. 実践活動の状況とその成果

昭和56年、県段階の魚料理コンクールに出品した作品が入賞したことに刺激を受け、毎年何人かがコンクール出品を続け、良い成績を得て自信をつけました。

しかし、部員一人一人が活動に参加したり、地域の人々に婦人部活動を知ってもらうことは難しく、役員だけに負担がかかることも多かったのです。

そこで、婦人部の話し合いの折りに私達が実践しようとしている活動をビデオに収め、それを島の人に見てもらい活動内容を知ってもらおうというアイデアが出され、全員大賛成でした。

幸いに大島では、全島内をネットワークした「大島ケーブルテレビ」が平成元年12月に開局され、小中学校や地域で実施された行事等を撮影し、毎日夜2時間くらい放送されます。

スタッフは、漁協の会計主任さんを中心に、農協の職員さん等で組織されたボランティア活動です。ほとんどの家が加入し視聴率も良く、私達の活動を目の耳で知ってもらい、理解と協力が最高に期待できます。いよいよ私達の実践活動が始まりました。

特に、ふれあい活動では他の婦人部組織や青年部と連携を図り、女性のパワーを地域に役立てるよう、地元の祭り等の行事には積極的に参画しております。夏の「盆踊り大会」、秋の「島民大運動会」、「婦人スポーツ大会」等を地域婦人会、農協婦人部と協力して企画・運営を行うとともに、常日頃から交流を盛んにし、横のつながりを持つことによってこれらのイベントで大きな成果が上がっております。

夏の「盆踊り大会」を例にして述べてみます。

「盆踊り大会」は昭和62年から中断されていました。「お盆に帰省された方々にも、昔からの伝統行事がすたれてしまい淋しい思いをさせている。」こんな声が婦人部集会で出ました。「これでよいものか。」「私達婦人部でなんとか復活させようや。」漁協婦人部の声を青年部・他婦人団体の投げかけたのが平成4年でした。復活1年目は人集めのため「福引き」もやりました。漁協・農協にも声をかけ協力してもらいました。しかしながら、参加者はわずか100人程度で完全復活には程遠い状況でした。そこで盆おどりの様子を「大島テレビ」で流してみましたら、「〇〇さんが映っている」「△△さんも来ていたよ」…等の声があちらこちらから出てきて、どうでしょう、次の年には踊りの輪がどんどん大きくなり、一重、二重と広がり大成功でした。現在では島民の半数は参加し、島内の全商店が協力してくれるようになり、また、青年部も模擬店を出して盆踊りを盛り上げております。お盆に帰省される方々からも大変喜ばれております。

平成5年からは「海の幸体験学習」と銘打った地元中学生を対象とした「魚のさばき方」講習会を行い、アジ、サバ、イカ等を使い、魚のおろし方や料理を教えています。男子生徒もぎこちない手つきで包丁を持ち、一生懸命取り組んでくれます。

平成7年3月、以前からぜひ実現させたいと思っていた朝市を毎月1回第2日曜日に開設することができました。初めは、漁協婦人部だけが鮮魚類、海藻等を販売していましたが、回を重ねるうちに農協婦人部も参加し、野菜、つけもの、花等を合同で販売し、にぎやかに交流しています。

大島には、かなりの若者が残ってくれており、新規就業者数は毎年県下1位ですが、若者のお嫁さん探しが大変なのです。青年部が毎年行っている女子短大生との交流会では私達婦人部が裏方役として交流会の堅苦しい雰囲気のを和ませたり、昼食の手伝いをします。この交流会がきっかけとなり、数名の女子大生が島に嫁いでいます。

環境美化活動としては、朝市終了後に海浜清掃を行っており、併せて地域の至る所にドラム缶を設置し、青年部と一緒に空き缶の回収を行っています。また、海を汚さないために、手作り廃油石けんを年2回全戸に無料配布を続けております。

## 5. 波及効果

大島独自のケーブルテレビを活用して、私達婦人部の活動を地域の皆さんに紹介することができ、たくさんの方が婦人部活動に参加して下さり、ふれあい活動の中から島の活性化が図られました。活動内容を皆さんの視聴覚に訴えたことが、より効果を上げたものと思います。

大島テレビをパイプ役として、

- ① 行事に参加出来なかった部員もテレビを見る事で参加した気分になれること。
- ② 家庭や地域の人に婦人部の活動内容を理解してもらえ協力が得られること。
- ③ 子供達が協力してくれる様になったこと。
- ④ 島中の人々の輪ができ、まとまりもよく婦人部は元気で明るく、漁業従事者として、自信と誇りをもつようになったこと。
- ⑤ 離島であるにもかかわらず毎年新規漁業就業者が喜んで残っていること。

等多くの成果が上がっていると思います。

そして、何よりも放映後、地域の皆さんから意見を聞くことにより、私達婦人部と地域住民とのコミュニケーションがはかれることです。

## 6. 今後の活動計画

私達は、大島テレビという素晴らしいネットワークを利用し、婦人部活動に活かしてきました。

これからは、この大切なネットワークがますます充実発展するように、住民の一人一人が、大島テレビの運営に関心をもち生活の一部として役立つよう様々な形での参画が求められるでしょう。

島の女性が連携することにより、むずかしかった島の活性化が図られるようになりました。

今後は

- ① 若妻組織を育成し、アイデアの出せる豊かな感性を大切にし、その声を生かす。
- ② 島の誰もがいつでも主役になれるよう活動の場面づくりのお手伝いをする。
- ③ 島特有の文化の発掘と情報発進をビデオを通じて島外へ送り出す。
- ④ 男性と女性が共通の立場で、共通の課題を解決するように協力し合う。

そして、婦人部員は大島の「元気印」としてふれあい活動をなお一層大切にし、子供からお年寄りまで心をひとつにし、手と手をつなぎ合って、煌めく海と大島の将来が素晴らしいものであると信じて活動を続けていこうと思います。

萩市大島漁協婦人部組織図

部 員 140人

監事 2人

部 長 1人

副部長 1人

会 計 1人

支部長 10人

赤  
先  
一  
区

赤  
先  
二  
区

赤  
前  
一  
区

赤  
前  
二  
区

東  
・  
浜  
区

西  
・  
沖  
出  
区

猪  
の  
坂  
区

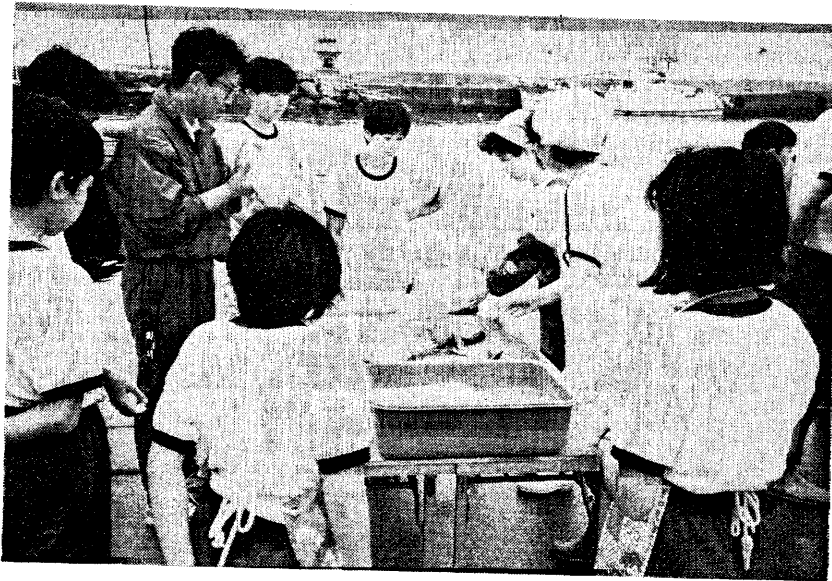
寺  
山  
区

登  
区

常  
村  
区



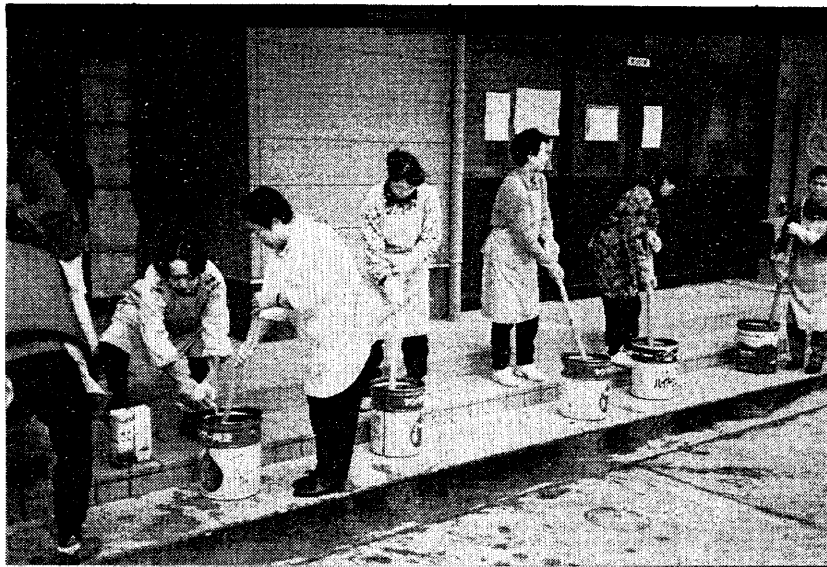
「農協婦人部との交流研修会」



「海の幸体験講習」



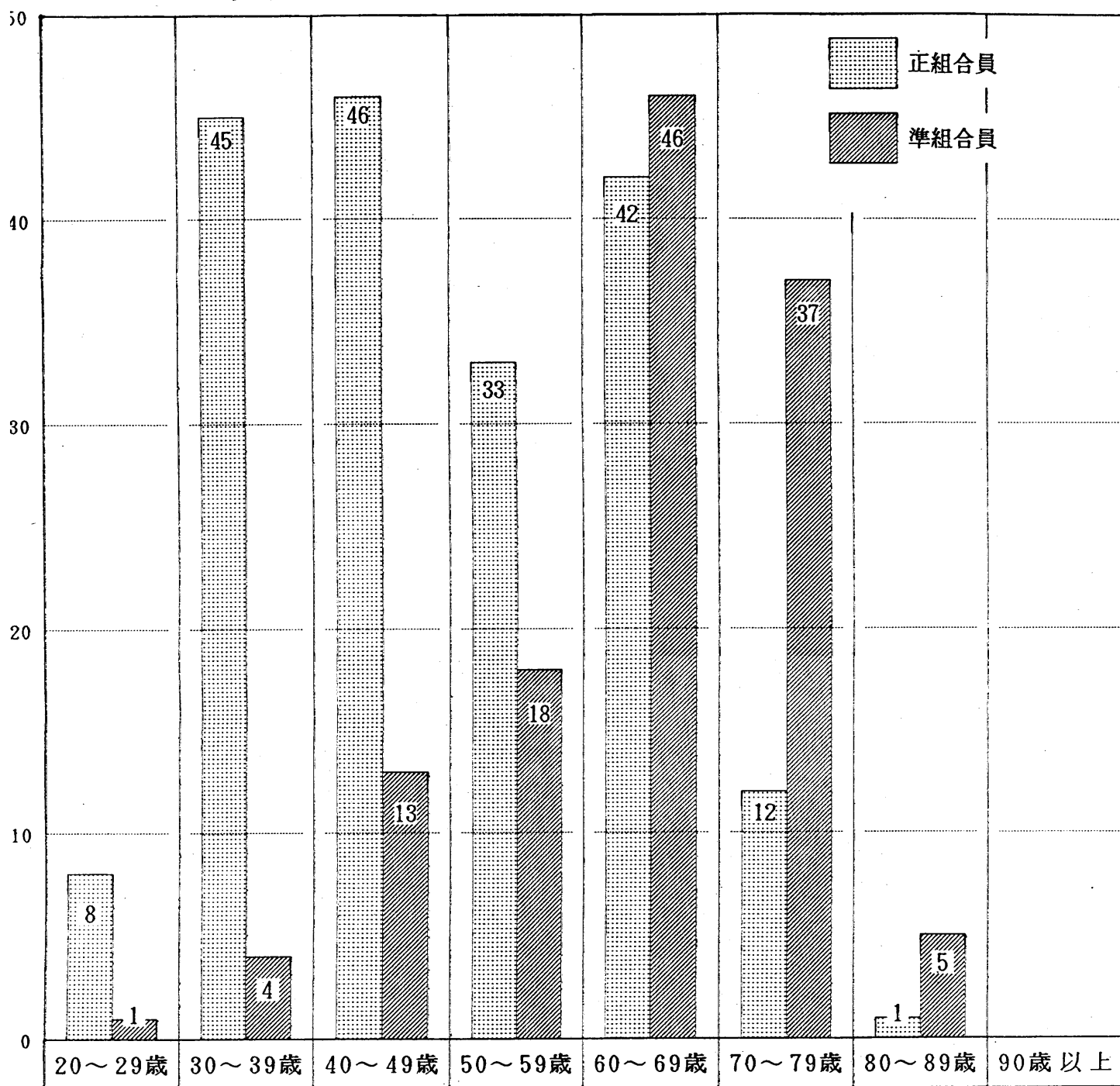
「女性研修講座」(エアロビクス教室)



「手づくりの廃油石けん」

# 組合員別・年齢別構成表

7年度

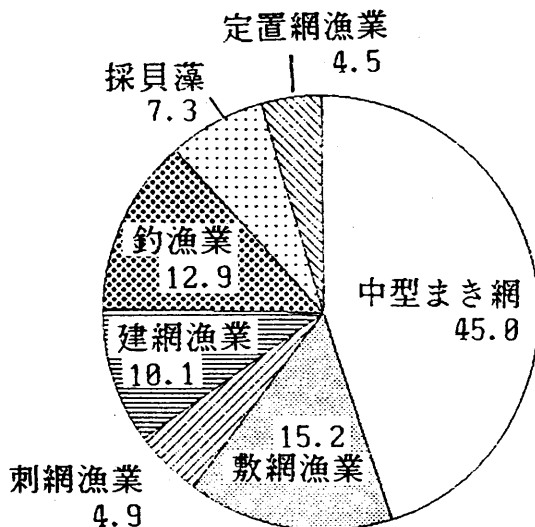


年齢区分	正	準	計	年齢区分	正	準	計	年齢区分	正	準	計	年齢区分	正	準	計
20～24歳	4	0	4	40～44歳	22	5	27	60～64歳	24	26	50	80～84歳	1	4	5
25～29歳	4	1	5	45～49歳	24	8	32	65～69歳	18	20	38	85～89歳	0	1	1
30～34歳	12	1	13	50～54歳	9	7	16	70～74歳	9	26	35	90歳以上	0	0	0
35～39歳	33	3	36	55～59歳	24	11	35	75～79歳	3	11	14				

漁業種類別経営体数・従事者数・生産量・生産金額

漁業種類	経営体数	従事者数	生産量 (kg)	生産金額 (円)	構成比 (%)	
中型まき網漁業	4	68	2,005,951	860,682,674	45	
敷網漁業	棒受・すくい網	15	49	1,638,008	240,189,274	12.5
	チョウチン網	30	36	89,895	51,360,517	2.7
	(計)	(45)	(85)	(1,727,903)	(291,549,791)	(15.2)
刺網漁業	やず刺網漁業	6	21	167,449	92,570,570	4.8
	きす・かます網	7	14	1,274	1,739,258	0.1
	(計)	(13)	(35)	(168,723)	(94,309,828)	(4.9)
建網漁業	沖建・曲建網	18	60	175,829	158,896,411	8.3
	磯建網漁業	12	23	38,488	34,809,777	1.8
	(計)	(30)	(83)	(214,317)	(193,706,188)	(10.1)
釣漁業	一本釣漁業	71	86	119,615	189,494,477	9.9
	延縄漁業	9	14	70,712	57,942,958	3.0
	(計)	(80)	(100)	(190,327)	(247,437,435)	(12.9)
採貝藻漁業	潜水漁業	41	50	26,119	128,206,217	6.7
	うに漁業	60	73	1,097	11,297,143	0.6
	(計)	(101)	(123)	(27,216)	(139,503,360)	(7.3)
定置網漁業	1	12	114,878	86,492,427	4.5	
その他漁業	5	8	2,248	2,349,286	0.1	
合計	(279)	(514)	(4,451,563)	(1,916,030,989)	(100%)	

【漁種別生産金額対比】(単位：%)



【年齢別組合員構成比】(単位：%)

